雪小だより 11月号

令和8年 10 月 31 日
大田区立雪谷小学校
校　長　　大曽根　努

切磋琢磨（せっさたくま）

校長　大曽根　努

朝晩の冷え込みが一段と厳しくなり、校庭の木々も鮮やかに色づき始めました。暦の上ではまもなく「立冬」を迎え、季節は秋から冬へと移り変わろうとしています。

運動会では、こどもたちは、大きな達成感とともに、たくましく成長した姿を見せてくれました。行事を通して培われた「友達との絆」や「最後までやり抜く力」は、これからの学校生活の基盤となる確かな財産です。この熱量を学習や日常の生活へと還元し、じっくりと腰を据えて自分を磨く「実りの秋」「充実の秋」にしてまいりたいと考えております。

さて、この「自分を磨く」というステップとして掲げたい言葉として「切磋琢磨」という四字熟語があります。この言葉は、もともと骨や角、玉や石といった素材を切り、磨き上げることで、美しい宝飾品へと仕上げる職人の工程に由来しているそうです。そこから転じ、「良き仲間同士が互いに励まし合い、競い合いながら、自分の学問や人格を磨き上げること」を意味するようになりました。学校という場所は、まさにこの「磨き石」としての仲間たちが集う場所です。一人で黙々と机に向かう努力も尊いものですが、仲間がいるからこそ、自分を振り返り、新たな視点を得て、さらに高い壁を乗り越えることも多いと思っています。

日本の歴史を振り返りますと、この「切磋琢磨」の精神を独自の仕組みとして機能させ、時代を大きく動かす原動力を生み出した地域があります。それが、幕末の薩摩藩（現在の鹿児島県）で行われていた「郷中教育（ごじゅうきょういく）」です。幕末の薩摩からは、西郷隆盛や大久保利通など、明治維新を成し遂げ、新しい日本を創り上げた偉大なリーダーたちが数多く輩出されました。驚くべきことに、彼らを育てたこの「郷中教育」という学びの場には、大人の先生がいませんでした。地域の６歳から25 歳までのこどもや若者が「郷中」という縦割りのグループを作り、年長者が年少者を教え、仲間同士で心身を鍛え合っていたのだそうです。

彼らが日々行っていたことの中には、現代の私たちが大切にすべき、極めて本質的な３つの教えが含まれています。１つ目は、「負けるな、嘘をつくな、弱い者をいじめるな」という倫理観です。どれだけ勉強ができても、武術が優れていても、人としての優しさや誠実さがなければ意味がない。これをこどもたち同士が日々の生活の中で厳しく、そして温かく教え合っていました。２つ目は、「詮議（せんぎ）」と呼ばれる議論の場です。彼らは「もしも、このような困難な場面に直面したら、自分はどう行動すべきか」という、正解のない問いについて、意見をぶつけ合いました。他者の意見を聴き、自分の頭で考え、判断する力。現代で言う「主体性」や「対話的で深い学び」を、彼らは仲間との熱い議論を通じて身につけていたのです。３つ目は、「挑戦することを称える文化」です。薩摩藩での教えで最も評価されるのは「挑戦して成功した人」、次に評価されるのは「挑戦して失敗した人」でした。最も恥ずべきこと（卑怯なこと）とされたのは、「何もしない人」や「他人の挑戦を批判ばかりしている人」だったのです。だからこそ、若者たちは失敗を恐れず、互いの挑戦を応援し、切磋琢磨し合うことができたのではないかと言われています。

現代を生きるこどもたちを取り巻く環境は、幕末とは大きく異なりますが、「人として正しくあること」「正解のない問いに立ち向かうこと」「失敗を恐れず挑戦すること」の重要性は、いつの時代も変わらないということを教えてくれます。学校とは、多様な個性をもつ仲間たちがぶつかり合い、語り合うことで、お互いを理解し合い、内なる輝きを引き出し合う「最高の郷中」であるべきだと考えています。

これからの季節、落ち着いた気候の中で学習活動は一層深まりを見せます。日々の授業におけるグループワークやペア学習、休み時間の他愛のない会話、ライバルとの競い合い。その全てが、こどもたちを磨き上げる大切なプロセスです。「あの子が頑張っているから、自分ももう一歩頑張ってみよう」「友達が良い意見を言ったから、自分は違う視点で考えてみよう」そんな前向きな刺激が教室のあちこちで生まれるよう、私たち教職員も一人一人の小さな成長や変化を見逃さず、適切な支援と声かけを行ってまいります。

ご家庭におかれましても、お子様が学校で見せる頑張りや、お友達との前向きな関わりのエピソードにぜひ耳を傾けていただき、言葉をかけていただけますと幸いです。

11月の目標

進んで係の仕事をしよう

こどもの心サポート月間

1	日	
2	月	振替休業日
3	火	文化の日
4	水	学習タイム SC
5	木	個人面談日程配布　学習タイム
6	金	薬物乱用防止教室(6)　児童集会
7	土	東京都教育の日
8	日	
9	月	安全指導　委員会　全校朝会
10	火	生活科見学(2)　学習タイム
11	水	小中一貫教育の会　学習タイム SC
12	木	避難訓練(火災→二次避難) ステップタイム　学習タイム
13	金	就学時健診
14	土	PTA 関連行事(雪小に泊まろう)
15	日	PTA 関連行事(雪小に泊まろう)
16	月	生命尊重週間(始)　クラブ
17	火	避難訓練予備(火災)　文化庁芸術家の派遣①(6)　学習タイム SC
18	水	算数補習(56)　消防署見学(3)1･2H　おおたの未来づくり(6)3･4H　学習タイム
19	木	社会科見学(5)　学習タイム
20	金	生活科見学予備日(2)　生命尊重週間(終)　人権集会　SC
21	土	学校公開日　道徳授業地区公開講座
22	日	
23	月	勤労感謝の日
24	火	振替休業日
25	水	区教研　算数補習(34) 文化庁芸術家の派遣②(6)　学習タイム
26	木	個人面談①　学習タイム
27	金	個人面談②　児童集会 文化庁芸術家の派遣③(6)　SC
28	土	
29	日	
30	月	委員会

※SC…スクールカウンセラー

お知らせ

病気休職中の岩黒大志栄養士の代替として板倉喜代美栄養士が 10 月 23 日より着任しました。

育児休業中の小林祐樹教諭ですが、第三子出産予定に伴い、休業期間が令和 10 年３月 31 日まで延長となります。

委員会活動

特別活動主任　坂本　裕真

委員会活動とは、こどもたちにとって学校生活がより楽しく、より充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、課題に自治的に取り組んでいくための活動です。

雪谷小学校では１２の委員会によって活動が行われています。月に１回行われる委員会活動では、委員長が中心となって毎月の活動の振り返りを行ったり、活動の準備を異学年で協力して行ったりしています。

様々な場面で活躍する高学年児童を見かけたときには、ぜひ声をかけてください。

伊豆高原移動教室を終えて

５年　飯島　彩香

５年生は、10 月 19 日（月）～21 日（水）に伊豆高原移動教室に行ってきました。１日目の伊豆シャボテン動物公園では、グループごとに、動物たちの様子を楽しみながら見学することができました。２日目の午前は城ケ崎海岸ハイキングに出かけました。総合的な学習の時間に事前学習で伊豆の地形について調べていたので、目の前に広がる巨岩や断崖絶壁に打ち当る白波に、伊豆の自然の豊かさを実感することができました。午後は、野外炊事を行いました。夏休みご家庭で練習した成果を発揮しようと張り切りながら、仲間と役割を分担し、安全に配慮し協力して美味しいカレーを作ることができました。自分たちで作り、仲間と一緒に食べるカレーは格別の美味しさだったことでしょう。

今回の移動教室は、５年生にとって初めての２泊３日の宿泊学習でした。自然に触れるだけでなく、時間を意識して行動することや、仲間と協力すること、集団のきまりを守ることなど多くの学びがありました。移動教室で得た経験を、これからの学校生活にも生かし、仲間とともにさらに成長していきます。

専科

音楽では、歌唱や楽器演奏、音楽を聴く活動を楽しみながら学習をしています。運動会での６年生鼓笛隊の発表は、練習の成果が発揮された素晴らしい演奏で、最高学年として下級生から憧れの存在になりました。日々の音楽活動を通じて一人ひとりが達成感を感じられるように、音楽の楽しさを味わえるように指導していきます。

音楽専科　濱守こころ

今年度は展覧会があります。児童が一生懸命考え、工夫してつくった作品を展示するのが楽しみです。図画工作の授業では、絵を描いたり、木や粘土などの材料を使って工作をしたり、立体をつくったりしてします。児童一人一人の思いを大切にしながら指導していきます。

図工専科　矢野　薫

家庭科では、衣食住を中心に、調理や裁縫などの実践的・体験的な活動を通して、こどもたちが自分の生活や家族の生活に目を向け,身につけた力を日常に生かしていけるように指導していきます。

家庭科専科　伊藤瑠璃葉

理科では、こどもたちが感じた「どうして？」「やってみたい！」を大切に授業を行っています。生活の中から疑問を見つけたり、学んだことを生活に生かそうとしたりする姿が日々みられ、とても嬉しいです。こどもたちが理科への興味関心を高められるよう、これからも努めていきます。

理科専科　水野　千穂

算数では､3 年生以上の学年で学級数プラス２の学級に分かれて、少人数学習を行っています。それぞれのレベルに合った学習方法で展開し、ひとりひとりのよりよい学びになるよう、担任、専科、講師が協力して指導を行っています。確かな学力につながるよう、一人一人を見守り、支援していきます。

算数少人数　芳賀　増代